

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 6 月 26 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200593		
法人名	森信建設 株式会社		
事業所名	グループホームなでしこ富士見町		
所在地	広島市中区富士見町15-23 (電話) 082-244-3599		
自己評価作成日	平成27年5月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200593-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年6月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

施設の運営理念「ゆったり・のんびり・ほがらかに」を前提としてお一人おひとりのその日その日の体調や気分等を配慮しながら、毎日の日課として地域への散歩にでかけ、四季を肌・目・耳・身体全体で感じて頂きメリハリのある生活を心がけています。また街なかの施設の特性を活かして大型スーパー等にも出かけるようにしています。 特に大切な食事提供は、開設当初より「地産地消」を合言葉に、県内の新鮮野菜やお米を使用しています。野菜は産直市場で購入、お米は東広島市黒瀬の生産農家から玄米で直送され、その都度必要分を自家精米して提供しています。 運営の母体が建設業ですので、施設内の細かい修理はもとより、在宅の管理なども将来的に視野に入れた終の棲家として安心安全な住まい空間を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ホームの運営理念「ゆったり、のんびり、ほがらかに」の下に、職員は時間に追われず、利用者がゆっくりと過ごせるように見守り支援している。「室内に閉じこもらず外出を」の方針により、ほぼ毎日散歩に出かけ、スーパーでの買い物や食事、近隣の祭りの参加などを積極的に行なっている。地元の新鮮な野菜や米を使った食事は、利用者に好評である。また、DVD鑑賞会・フラダンス・ボランティアによる催しなど、様々な催しを企画し、利用者に楽しんでもらっている。また、下肢筋力低下防止の為に、利用者に応じた生活リハビリにも取り組んでいる。ここでは、家族会が結成され、納涼祭などホーム行事の援助、必要物品の購入支援を積極的に行ない、花見やもみじ狩りなどの行事には、多くの家族が参加し利用者と一緒に楽しんでいる。

自己評価外部評価状況(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「ゆったり、のんびり、ほがらかに」ということを運営の理念としています。朝夕の職員の引継ぎの場に掲示し、毎朝出席者で唱和し、確認しています。日常の運営に際しても理念を常に意識して介護業務を行っています。	運営理念「ゆったり、のんびり、ほがらかに」は、毎朝の申し送り時に唱和し、職員間で確認している。	理念の実践については、もう少し工夫が必要と思われる。理念を基にした「職員行動指針」から職員各自の目標を立て行動し、半期毎に評価し、職員全員で理念を実践できるよう、取り組んでいただきたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の散歩等では地域の方と挨拶や会話をする ことで、顔見知りになりホームの見学を希望される方はいつでも来ていただけるよう、声かけをしております。地域や町内のお祭り・行事に積極的に させていただいています。時々、ご近所の方が入居者とお話に来られることもあります。	町内会の行事（夏祭り、とんど等）に利用者と一緒に参加し、交流を深めている。また、ホームで開催される「納涼祭」には、地域住民を招待し、利用者、家族、職員と一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	1階そとだん館は地域・町内の行事等の使用希望があればいつでも使用できるよう開放しています。入居者も参加可能であれば参加させていただき交流を行っています。施設内の行事等には地域の皆様にも参加して頂くようにしています。気軽に介護についての質問や相談を受けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご入所様のご家族や町内役員の方、地域包括センターの職員等との意見交換や情報交換を行い、内外のご提案などをお聞きし、日々の運営に活かしています。また、消防訓練は毎月行い、認知症サポーターの講習会なども取り入れて地域との連携を意識した運営を心がけています。	定期的に開催される運営推進会議には、多くの家族が出席し、活発な意見交換が行なわれている。出席者からの意見で、認知症勉強会を開催したり、毎月ホームで行なわれる消防訓練について説明を行なっている。	会議には、家族の参加は多いが、地域住民の出席が少ない状況である。今後は、地域の人々に参加を要請し、より活発な意見交換の場となるように取り組んでいただきたい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	隔月開催の運営推進会議には、国泰寺地域包括支援センター職員のほか、中区介護保険課の職員にも開催・出席を呼びかけ、ご都合に応じて参加を得ています。毎回、会議記録をFAX送信し欠席時の協議内容を報告しており連携は出来ている と思います。	運営推進会議に市や区職員の出席を要請しているが実現していない。しかし、地域包括支援センター担当者は毎回出席し、介護保険について意見交換をしている。	

自己評価外部評価状況(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、隔月開催の全体会議、日々の引継ぎ時などで、具体例を挙げて身体拘束とみられかねない行為などについて指摘・指導や確認など行っています。3点ベット柵や拘束バンドは使用していません。また、ユニットの主玄関は日中施錠せず、季節によっては開放しています。	「身体拘束」については、マニュアルを作成し、全職員に配布し確認してもらっている。また、申し送り時には、身体拘束の具体例について説明を行なっている。なお、各階のホーム入り口は施錠せず、開放している。	今のところ、職員全員を対象とした「身体拘束勉強会」は行なわれていないようである。今後は、定期的に職員研修を行ない、「身体拘束をしないケア」の重要性について説明し、職員が理解できるように取り組んでいただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修には積極的に参加し、その場で学んだことは全体会議の場で報告し、全職員で共有できるようにしています。また、入浴介助の際にはご入所の身体に不審な傷・痣等ができていないか必ず確認をして報告しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	一般社団法人人生安心サポートセンターきらりの賛助会員となっており、成年後見人制度についての仕組みや役割などを管理者等は理解しています。ご家族からの相談時にはこのような組織があることなどを説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、細かい仕組み、体制、費用などについて、書類を読み上げて説明しています。特に健康管理や重篤時の対応などは丁寧にご説明し、ご理解・ご納得をいただけるよう心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的にご入所様と接する中で細かい要望なども積極的に聞き出して、出来ることから応えるように心がけています。またご家族のご来所時には、我々への要望・思いや苦情等は、積極的に管理者にて機会を設けてお聞きするようにしています。また苦情処理機関の存在などリーフレットも置いています。	家族の意見や要望は、面会や行事に参加された際に聞いている。家族からの要望で、ホーム便りに新任職員を紹介したり、各階に全職員の顔写真を掲示している。年に1回の家族会では、家族同志で意見交換を行い、また、家族会としてホームに協力するためにアンケートを行い、結果をホームに報告している。	

自己評価外部評価状況(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者と管理者はほぼ毎日、協議等行っており、不在時はメールにて24時間意見聴取できる体制をとっています。また、隔月の職員全体会議や随時のリーダー会議、さらに必要時は個別での意見聴取の機会を作っています。	毎月のフロア会議・リーダー会議で職員の意見を聞いている。職員の要望により、浴室などの手すりの設置、宮島へのもみじ狩りや外食について計画を立て実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、不在時を除き毎朝の引継ぎには出席し、就業環境の確認などを行っています。また、職員の処遇改善に向けては社労士の指導助言など受けて、常に前向きに実施する事を明示し、心がけています。なお、年1回 個人面談を行うようにしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修は毎月テーマを決めて研修（勉強会）を行っています。また積極的に外部の研修を案内し参加を促すとともにシフトの便宜を図っています。個人に帰する資格研修の参加費用については給与との分割相殺など職員の負担の軽減を図っています施設に帰する研修は施設が負担しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホームや訪問介護サービス事業会社などとの、代表者や管理者の交流や研修派遣などを通じて、他の施設での参考事例を身につけ、報告書での社内回覧を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の事前面接では、ご本人の生活の様子ADLを確認し、困りごとや要望などの聞き出しに時間をかけています。入所後の数日は、帰宅願望など不穏状態が見られることから、職員の重点的な見守りを行い、ご本人やご家族の要望や相談事を聴く機会を積極的にとり、安心感を醸成しています。		

自己評価外部評価状況(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面接ではご家族やケアマネを含めてこれまでの生活の様子、ご家族の困りごとや要望等の聞きだしに、時間をかけています。入所後の数日は、ご本人は帰宅願望などで不穏状態が見られることからご家族との連絡を密にして、ご要望などを聴く機会を積極的にとり安心感を醸成しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面接ではご本人、ご家族やケアマネを含めて、ご希望などを聞きだします。入所後の数日は帰宅願望など不穏状態なので職員を重点的に見守りさせて、引き続き要望や相談事を聴く機会や時間を作るようにしています。フロアミーティングで、今後の支援について協議を行います。時には緊急ミーティングも行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員はご入所者の「新しい家族」という立場を認識し、新しい家で、新しい家族としての信頼関係を築き、何事も共に寄りそいながら行い、日々を過すよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いをしっかり受け止めて、入所後も負担を少しでも軽減できるよう心がけるとともに、ご入所者に寄り添い、早く信頼関係を築けるよう心がけて対応しています。家族会を立ち上げて2年目になり行事などご家族から積極的に参加・協力・支援等していただいております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人からのご要望や相談があれば、まず対応し、外部との手紙のやり取りや電話等も必要に応じて取り次いでいます。特に不穏な時やご家族の訪問が必要時には、施設に来ていただけるよう連絡を取り調整しています。	今まで利用していた美容院や喫茶店に行きたいなどの要望があれば、家族に伝え対応してもらっている。	

自己評価外部評価状況(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入所時から性別、同じレベルの方、趣味や生活スタイルなど、お話が合う方は席を近づけたり、時には入れ替える等、お互いに刺激を与えるような工夫を行っています。またユニットを越えてレクを行い合同での相互交流を行っています。人間関係など考慮して部屋の移動など了解を得て行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も、家族様の不安を取り除く為居宅介護支援所とのかかわりは継続しています。近くに行った際はケアマネを訪ね、その後の経過などお聞きしています。また ご家族の中にはボランティアで来たいと申し入れがあり お餅つきのお手伝い・舞踊などお願いをしております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入所者ご本人の現在・過去の思いや暮らし方等をお聴きし、我々で対応出来る事は積極的に取り組んでいます。家族会として要望事項等のアンケートを行い、その集計結果を日々の参考にしています。またご家族のご了解が必要な事項は連絡を取り、個別に対応しています。	日々の会話の中で把握した利用者の思いや意向は介護記録に記載し、職員間で共有している。その中で、長年従事していた仕事が忘れられない利用者には、簡単な作業をしてもらったり、俳句が好きな方には、鉛筆や紙を用意し書けるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接では、これまでの住まいをお訪ねし、日常のADLなどを確認するとともに、ディサービスなどこれまでの介護サービスでの状況も観察させて頂いています。入所後は見守りや声かけなどを通じて、細やかにご本人のご要望等をお聞きするとともに、ご家族様にも訪問をお願いし、なじみの暮らし方と差が無いよう心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	継続的な職員の介護や見守り、散歩やレクなどでの状態をもとに、日勤リーダーを中心とした朝の引継ぎ時に管理者、看護師などと協議して、それぞれの方の一日の過ごし方などを取りまとめて、日々実施しています。		

自己評価外部評価状況(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成に当たっては、ご家族やご入所者本人のご希望を聞き作成しています。 また担当職員やユニット職員、看護師と共に、介護計画作成に必要な事を聞き出し作成アクセスを行っています。	利用者毎に担当者を決め、担当者が3ヶ月に1回モニタリングを行い、ケアプラン作成者がまとめている。また、ケアカンファレンスには、担当者も参加し意見を述べ、ケアプランの見直しを行い、最終的にケアプラン作成者がプランを完成させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録・個人記録等は、日勤・夜勤者が、記入し、その他の職員は、出勤時に記録を確認してから業務に入るようにしています。 特記事項等は、朝夕の申し送りで情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入所者等のご希望により、外部のディサービスの利用を受け入れています。その他ご要望や状態に合わせて、ご家族やご本人様を交え他のサービス利用を行うようにしています。今後は建設部門との連携でこれまでの住まいの活用などの相談にも乗れるよう多機能化も視野に入れていきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎日の散歩等で地域の方と顔見知りになり声をかけて頂いたり、グループホームにも遊びに来てくださることが多くなりました。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時、ご本人・ご家族の意向等をお聞きし、そのご希望をもとに受診・往診を協力し対応をしています。 ホームのかかりつけ医として内科・歯科(1/週)・皮膚科等の往診をお願いしています。看取りの時は夜を徹して立ち会っていただいております。	利用者と家族の要望によりかかりつけ医を決めている。ホーム協力医は24時間対応が可能であることを家族に説明し、現時点では、ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。	

自己評価外部評価状況(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は週三日の勤務ですが、それ以外も常に連絡が取れる体制となっており、休日・夜間でも緊急の対応を行っています。日常はかかりつけ医や受診医療機関等との連絡を担い、十分に相談しながら、日常の健康医療の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入所者のこれまでの入院病院とは常に情報交換をしています。緊急時の搬送などの受け入れを確認しています。また途中入院時は、退院に向けて常に状態を把握しご家族や入所者が退院、再入居できるように務めています。また医療行為が必要な場合は他の病院の紹介なども行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所する時点で重度化への指針や、緊急時の体制などについて、入念にお話させていただいています。ご入所後、状態が悪くなっていく場合は、かかりつけ医・看護師・管理者とご家族で、今後の重篤時の対処などについて話し合いを行い、承諾書等も頂いています。	ホームとしては、利用者、家族の要望があれば、看取りを行なう方針であり、入居時に「重度化した場合の指針」について説明している。重度化した際には、医師の意見を基に家族と方針を決め、利用者に寄り添う支援を行なっている。今までに3件の看取り事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時などは、運営マニュアルに沿って、連絡網で即時情報が流れるよう体制をとっています。これまで発生した事例をもとに、再度、当日の行動など関係者で振り返り、改善などについて意見交換と研修をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	月に一回、定期的に消防避難訓練（日中・夜間を想定して）を行い、ご入所者の誘導、初期消火などについて、実際に身につけています。消防法の改正でビル全体の防災訓練などにも参加し、運営推進会議等では地域の方々とも災害時の対応について話し合っています。	年2回の避難訓練（日中・夜間を想定）では、消防署が立会い訓練を実施している。また、それ以外にホーム独自の避難訓練を毎月行なっている。訓練では、実際に利用者も参加することもあり、職員は避難方法や避難経路について確認をしている。	

自己評価外部評価状況(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入所者様への日常の言葉遣い等は特に注意が必要で、全職員で接遇とマナーの勉強会を実施しています。必ずしも敬語の対応がふさわしくない場合など、「家族の一員」という視点で最適な口調となるよう配慮しています。	ホームで行なわれた「接遇・排泄・入浴の勉強会」では、プライバシーの確保について学び、また、適切な言葉使いやプライバシーの確保について、職員同士で注意し合いサービスの向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の要望や思いなどに素直に耳を傾け、また自己決定できるよう問いかけをしています。その中で出来る事は対応し、出来ない事は丁寧に説明しています。場合によっては、管理者や統括を交えて話し合い、納得をえられるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	先ずはご入所者のその日の体調等を考慮し、その方の思いや要望をお聞きして最適な過ごし方が出来るように心がけています。当日入浴を希望されない方は翌日に回したりしてます。食欲が無い場合や一斉での食事を希望されない時は、後で一人でも食べられるよう工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、ご本人の好みの洋服に着替えていただきます。化粧品もご本人、ご家族の希望があれば、つけていただいています。定期的に理美容サービス（ヘルパー有資格者）に来ていただき、ご本人の希望に合わせて、カット・カラー・パーマをお願いしています。また外部の行きつけの美容院を希望の際はご家族と行かれています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段の食事作りへの参加はありませんが、時々ホットプレートを使用の際は、一緒に作っていただいて、食器等の後片付けは無理の無い程度に一緒にしていただいております。産直市の旬の食材を取り入れ、季節を感じていただきながら、主食のお米は県内産の玄米を自社精米して、常に美味しく召し上がっていただけるよう提供しています。	毎月の献立は、管理栄養士により作成されているが、利用者の要望により、アンパンや焼きそばを提供することもある。天気が良い日には、ホーム3階のバルコニーでお茶を楽しむこともある。また、毎月の誕生会では、刺身やちらし寿司を提供し、時には外食に行くこともある。	

自己評価外部評価状況(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養管理士の献立表を参考に作っています。食事・水分等の摂取量は、個別に記録し、常に推移を見ながら、工夫と配慮をしています。また入所者の様子（好み・硬さ・味等）特記があれば献立表に職員が記入し、今後の食事作りに役立てるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを全員行っています。その後の確認を職員が行い、週1回の歯科医院の往診時には入所者ひとり一人が歯科衛生士による口腔ケア及び指導を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	原則パット内に排泄ではなく、トイレにて自立での排泄ができるよう支援しています。それでテープ式のオムツは使用しない。排泄表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけにてトイレに誘導しています。また動作・表情などを察知してトイレ誘導をし、気持ちよく排泄していただくよう取り組んでいます。	利用者各自の排泄パターンを職員が理解し、トイレ誘導を行っている。ここでは、テープ式のオムツは使用せず、布パンツ使用の利用者については、出来るだけ現状を維持できるように、職員は温かく見守り支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	処方された便秘薬に頼ることなく、極力自然排泄が進むよう寒天ゼリーを昼食時に、また飲み物に寒天粉を入れるなど工夫をしています。その人に合った適度な運動・散歩を、毎日の日課に取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回（夏場は3回）の入浴を行っています。その日の体調・或いは入浴の拒否がある場合には、無理をせずご本人の意思を尊重し日を変えて入浴をしていただくよう対応しています。	ホームとしては、午前中に入浴を行なうようにしているが、利用者の要望で午後に変更することもある。利用者の体調や気分配慮して、無理強いせず、時間や日時の変更を行なっている。	

自己評価外部評価状況(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	天気の良い日には、寝具類の天日干しや風通しなどを行い、清潔な安眠環境づくりを心がけています。日中のレクや軽い運動・日向ぼっこをする等で、夜間ぐっすり眠り昼夜逆転をしないよう心がけています。処方による睡眠導入剤の服用なども、日々の状況によって対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご入所者ごとの処方されている服薬情報をまとめ、かかりつけ医・看護師・職員が確認できるよう、工夫配慮しています。決められた時間・量等の服薬支援をしています。また状態を看護師と確認しながら、かかりつけ医と相談し服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ひとり一人の好みや得意分野など、日々のかかわりの中から引き出して取り組みが可能なものは、検討し導入しています。家族会によるアンケートも参考にしています。固定的な役割分担など決める事はせず、その日の気分・体調に合わせて無理のないよう家事の手伝い・散歩や、ボランティアによる催し物に参加を支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご入所者全員のご希望に沿う事は難しいのですが、天気の良い日はほぼ毎日近隣の散歩を実施しています。またおやつレクとして、近くのショッピングセンターに行ってお好きな物を食べて頂いています。ご希望により外部のディサービスへの送り出しや、ご家族との外出・外食なども行っています。	施設内に閉じこもらず、出来るだけ外出の機会を設けたいとの方針により、天気の良い日はほぼ毎日、散歩している、近隣で行なわれる祭りに参加したり、近くのスーパーでの買い物に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご入所時に、金銭管理の説明をご家族を交えて行っています。金銭管理規定に沿って、金庫での預かりと支出記録を行い、毎月の請求時等にはその報告を行っています。ご希望により現金が必要な時には、職員立会いで買い物や飲食などをして頂いています。		

自己評価外部評価状況(3階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取り扱いについては、入所時にご家族と話し合いを行っています。必要であれば携帯電話を所持されています。手紙の受発信は原則自由ですが、ご家族のご意向に沿った相手先に限定しています。事前に開封などは行っていません。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室室内や共用施設は掃除の仕方をマニュアルで定め、清潔で明るい空間となるように務めています。バルコニーに季節の草花を育てたり、リビングに飾ったりして季節感を出しています。またご入所者と一緒に作業を行う事で生活感覚を取り戻していただいています。	職員全員で室内を清潔に保つように努めており、室内は掃除が行き届いている。バルコニーは季節の花が咲き、利用者を和ませている。また、季節に応じた作品を利用者と一緒に作成し、掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファ、3階バルコニーにはベンチを置いて自由に座って頂き、ご入所者同士の交流を深めて貰っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所前にご家族やご本人に、居室を見学していただき、それまでの日々の生活の状況と違和感の無いように、使い慣れた家具・椅子・テレビなど持込んでいただいたりご家族と一緒に考え工夫をしています。	今まで使用していた家具を持ち込み、趣味の歌舞伎カレンダーを飾るなど、各人が快適に過ごせるように、家族と一緒に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設の随所にスロープや手摺を設けています。一部のトイレは段差を残していますが、これは下肢筋力低下予防にも役立っています。現場の職員の声からトイレ付近に手摺を増設しました。これからも現場の声に対応して行きます。		

自己評価外部評価状況(4階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「ゆったり、のんびり、ほがらかに」ということを運営の理念としています。朝夕の職員の引継ぎの場に掲示し、毎朝出席者で唱和し、確認しています。日常の運営に際しても理念を常に意識して介護業務を行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の散歩等では地域の方と挨拶や会話をすることで、顔見知りになりホームの見学を希望される方はいつでも来ていただけるよう、声かけをしております。地域や町内のお祭り・行事に積極的にさせていただいています。時々、ご近所の方が入居者とお話に来られることもあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	1階そとだん館は地域・町内の行事等の使用希望があればいつでも使用できるよう開放しています。入居者も参加可能であれば参加させていただき交流を行っています。施設内の行事等には地域の皆様にも参加して頂くようにしています。気軽に介護についての質問や相談を受けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご入所様のご家族や町内役員の方、地域包括センターの職員等との意見交換や情報交換を行い、内外のご提案などをお聞きし、日々の運営に活かしています。また、消防訓練は毎月行い、認知症サポーターの講習会なども取り入れて地域との連携を意識した運営を心がけています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	隔月開催の運営推進会議には、国泰寺地域包括支援センター職員のほか、中区介護保険課の職員にも開催・出席を呼びかけ、ご都合に応じて参加を得ています。毎回、会議記録をFAX送信し欠席時の協議内容を報告しており連携は出来ていると思います。		

自己評価外部評価状況(4階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、隔月開催の全体会議、日々の引継ぎ時などで、具体例を挙げて身体拘束とみられかねない行為などについて指摘・指導や確認など行っています。3点ベット柵や拘束バンドは使用していません。また、ユニットの主玄関は日中施錠せず、季節によっては開放しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修には積極的に参加し、その場で学んだことは全体会議の場で報告し、全職員で共有できるようにしています。また、入浴介助の際にはご入所の身体に不審な傷・痣等ができていないか必ず確認をして報告しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	一般社団法人人生安心サポートセンターきらりの賛助会員となっており、成年後見人制度についての仕組みや役割などを管理者等は理解しています。ご家族からの相談時にはこのような組織があることなどを説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、細かい仕組み、体制、費用などについて、書類を読み上げて説明しています。特に健康管理や重篤時の対応などは丁寧にご説明し、ご理解・ご納得をいただけるよう心かけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常にご入所様と接する中で細かい要望なども積極的に聞き出して、出来るところから応えるように心がけています。またご家族のご来所時には、我々への要望・思いや苦情等は、積極的に管理者にて機会を設けてお聞きするようにしています。また苦情処理機関の存在などリーフレットも置いています。		

自己評価外部評価状況(4階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者と管理者はほぼ毎日、協議等行っており、不在時はメールにて24時間意見聴取できる体制をとっています。また、隔月の職員全体会議や随時のリーダー会議、さらに必要時は個別での意見聴取の機会を作っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、不在時を除き毎朝の引継ぎには出席し、就業環境の確認などを行っています。また、職員の処遇改善に向けては社労士の指導助言など受けて、常に前向きに実施する事を明示し、心がけています。なお、年1回 個人面談を行うようにしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修は毎月テーマを決めて研修（勉強会）を行っています。また積極的に外部の研修を案内し参加を促すとともにシフトの便宜を図っています。個人に帰する資格研修の参加費用については給与との分割相殺など職員の負担の軽減を図っています施設に帰する研修は施設が負担しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホームや訪問介護サービス事業会社などとの代表者や管理者の交流や研修派遣などを通じて他の施設での参考事例を身につけ、報告書での社内回覧を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の事前面接ではご本人の生活の様子ADLを確認し、困りごとや要望などの聞き出しに時間をかけています。入所後の数日は帰宅願望など不穏状態が見られることから職員の重点的な見守りを行い、ご本人やご家族の要望や相談事を聴く機会を積極的にとり安心感を醸成しています。		

自己評価外部評価状況(4階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面接ではご家族やケアマネを含めてこれまでの生活の様子、ご家族の困りごとや要望等の聞きだしに時間をかけています。入所後の数日はご本人は帰宅願望などで不穏状態が見られることからご家族との連絡を密にしてご要望などを聴く機会を積極的にとり安心感を醸成しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面接ではご本人、ご家族やケアマネを含めてご希望などを聞きだします。入所後の数日は帰宅願望などで不穏状態なので職員を重点的に見守りさせて、引き続き要望や相談事を聴く機会や時間を作るようにしています。フロアミーティングで今後の支援について協議を行います。時には緊急ミーティングも行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員はご入所者の「新しい家族」という立場を認識し、新しい家で、新しい家族としての信頼関係を築き、何事も共に寄りそいながら行い、日々を過ごす心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いをしっかり受け止めて、入所後も負担を少しでも軽減できるよう心がけるとともに、ご入所者に寄り添い、早く信頼関係を築けるよう心がけて対応しています。家族会を立ち上げて2年目になり行事などご家族から積極的に参加・協力・支援等していただいております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人からのご要望や相談があれば、まず対応し、外部との手紙のやり取りや電話等も必要に応じて取り次いでいます。特に不穏な時やご家族の訪問が必要時には施設に来ていただけるよう連絡を取り調整しています。		

自己評価外部評価状況(4階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入所時から性別、同じレベルの方、趣味や生活スタイルなどお話が合う方は席を近づけたり、時には入れ替える等、お互いに刺激を与えるような工夫を行っています。またユニットを越えてレクを行い合同での相互交流を行っています。人間関係など考慮して部屋の移動など了解を得て行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も、家族様の不安を取り除く為居宅介護支援所とのかかわりは継続しています。近くに行った際はケアマネを訪ね、その後の経過などお聞きしています。また ご家族の中にはボランティアで来たいと申し入れがあり お餅つきのお手伝い・舞踊などお願いをしております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入所者ご本人の現在・過去の思いや暮らし方等をお聴きし我々で対応出来る事は積極的に取り組んでいます。家族会として要望事項等のアンケートを行いその集計結果を日々の参考にしています。またご家族のご了解が必要な事項は連絡を取り、個別に対応しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接ではこれまでの住まいをお訪ねし日常のADLなどを確認するとともに、デイサービスなどこれまでの介護サービスでの状況も観察させて頂いています。入所後は見守りや声かけなどを通じて細やかにご本人のご要望等をお聞きするとともにご家族様にも訪問をお願いし、なじみの暮らし方と差が無いよう心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	継続的な職員の介護や見守り、散歩やレクなどでの状態をもとに、日勤リーダーを中心とした朝の引継ぎ時に管理者、看護師などと協議して、それぞれの方の一日の過ごし方などを取りまとめて、日々実施しています。		

自己評価外部評価状況(4階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成に当たっては、ご家族やご入所者本人のご希望を聞き作成しています。 また担当職員やユニット職員、看護師と共に介護計画作成に必要な事を聞き出し作成アクセスを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録・個人記録等は日勤・夜勤者が、記入し、その他の職員は出勤時に記録を確認してから業務に入るようにしています。 特記事項等は朝夕の申し送りで情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入所者等のご希望により外部のディサービスの利用を受け入れています。その他ご要望や状態に合わせてご家族やご本人様を交え他のサービス利用を行うようにしています。今後は建設部門との連携でこれまでの住まいの活用などの相談にも乗れるよう多機能化も視野に入れていきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎日の散歩等で地域の方と顔見知りになり声をかけて頂いたり、グループホームにも遊びに来てくださることが多くなりました。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時ご本人・ご家族の意向等をお聞きしそのご希望をもとに受診・往診を協力し対応をしています。 ホームのかかりつけ医として内科・歯科（1/週）・皮膚科等の往診をお願いしています。看取りの時は夜を徹して立ち会っていただいております。		

自己評価外部評価状況(4階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は週三日の勤務ですが、それ以外も常に連絡が取れる体制となっており休日・夜間でも緊急の対応を行っています。日常はかかりつけ医や受診医療機関等との連絡を担い、十分に相談しながら、日常の健康医療の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入所者のこれまでの入院病院では常に情報交換をしています。緊急時の搬送などの受け入れを確認しています。また途中入院時は、退院に向けて常に状態を把握しご家族や入所者が退院、再入居できるように務めています。また医療行為が必要な場合は他の病院の紹介なども行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所する時点で重度化への指針や緊急時の体制などについて入念にお話させていただいています。ご入所後、状態が悪くなっていく場合は、かかりつけ医・看護師・管理者とご家族で今後の重篤時の対処などについて話し合いを行い、承諾書等も頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時などは、運営マニュアルに沿って連絡網で即時情報が流れるよう体制をとっています。これまで発生した事例をもとに、再度当日の行動など関係者で振り返り改善などについて意見交換と研修をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	月に一回定期的に消防避難訓練（日中・夜間を想定して）を行い、ご入所者の誘導、初期消火などについて実際に身につけています。消防法の改正でビル全体の防災訓練などにも参加し、運営推進会議等では地域の方々とも災害時の対応について話し合っています。		

自己評価外部評価状況(4階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入所者様への日常の言葉遣い等は特に注意が必要で全職員で接遇とマナーの勉強会を実施しています。 必ずしも敬語の敬語の対応がふさわしくない場合など、「家族の一員」という視点で最適な口調となるよう配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の要望や思いなどに素直に耳を傾けまた自己決定できるよう問いかけをしています。その中で出来る事は対応し、出来ない事は丁寧に説明しています。場合によっては管理者や統括を交えて話し合い、納得をえられるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	先ずはご入所者のその日の体調等を考慮しその方の思いや要望をお聞きして最適な過ごし方が出来るように心がけています。当日入浴を希望されない方は翌日に回したりしています。食欲が無い場合や一斉での食事を希望されない時は後で一人でも食べられるよう工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝ご本人の好みの洋服に着替えていただきます。化粧品もご本人、ご家族の希望があれば、つけていただいています。定期的に理美容サービス（ヘルパー有資格者）に来ていただきご本人の希望に合わせてカット・カラー・パーマをお願いしています。また外部の行きつけの美容院を希望の際はご家族と行かれています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段の食事作りへの参加はありませんが、時々ホットプレートを使用の際は一緒に作っていただいて、食器等の後片付けは無理の無い程度に一緒にしていただいております。産直市の旬の食材を取り入れ季節を感じていただきながら、主食のお米は県内産の玄米を自社精米して常に美味しく召し上がっていただけるよう提供しています。		

自己評価外部評価状況(4階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養管理士の献立表を参考に作っています。食事・水分等の摂取量は個別に記録し、常に推移を見ながら工夫と配慮をしています。また入所者の様子（好み・硬さ・味等）特記があれば献立表に職員が記入し、今後の食事作りに役立てるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを全員行っています。その後の確認を職員が行い、週1回の歯科医院の往診時には入所者ひとり一人歯科衛生士による口腔ケア及び指導を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	原則パット内に排泄ではなくトイレにて自立での排泄ができるよう支援しています。それでテープ式のオムツは使用しない。排泄表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけにてトイレに誘導しています。また動作・表情などを察知してトイレ誘導をし気持ちよく排泄していただくよう取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	処方された便秘薬に頼ることなく極力自然排泄が進むよう寒天ゼリーを昼食時に、また飲み物に寒天粉を入れるなど工夫をしています。その人に合った適度な運動・散歩を毎日の日課に取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回（夏場は3回）の入浴を行っています。その日の体調・或いは入浴の拒否がある場合には無理をせずご本人の意思を尊重し日をかえて入浴をしていただくよう対応しています。		

自己評価外部評価状況(4階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	天気の良い日には寝具類の天日干しや風通しなどを行い清潔な安眠環境づくりを心がけています。日中のレクや軽い運動・日向ぼっこをする等で夜間ぐっすり眠り昼夜逆転をしないよう心がけています。処方による睡眠導入剤の服用なども日々の状況によって対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご入所者ごとの処方されている服薬情報をまとめかかりつけ医・看護師・職員が確認できるよう工夫配慮しています。決められた時間・量等の服薬支援をしています。また状態を看護師と確認しながらかかりつけ医と相談し服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ひとり一人の好みや得意分野など日々のかかわりの中から引き出して取り組みが可能なものは検討し導入しています。家族会によるアンケートも参考にしています。固定的な役割分担など決める事はせずその日の気分・体調に合わせて無理のないよう家事の手伝い・散歩やボランティアによる催し物に参加を支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご入所者全員のご希望に沿う事は難しいのですが、天気の良い日はほぼ毎日近隣の散歩を実施しています。またおやつレクとして近くのショッピングセンターに行って好きな物を食べて頂いています。ご希望により外部のディサービスへの送り出しや、ご家族との外出・外食なども行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご入所時に金銭管理の説明をご家族を交えて行っています。金銭管理規定に沿って金庫での預かりと支出記録を行い、毎月の請求時等にはその報告を行っています。ご希望により現金が必要な時には職員立会いで買い物や飲食などをして頂いています。		

自己評価外部評価状況(4階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取り扱いについては入所時にご家族と話し合いを行っています。必要であれば携帯電話を所持されています。手紙の受発信は原則自由ですが、ご家族のご意向に沿った相手先に限定しています。事前に開封などは行っていません。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室室内や共用施設は掃除の仕方をマニュアルで定め、清潔で明るい空間となるように務めています。バルコニーに季節の草花を育てたり、リビングに飾ったりして季節感を出しています。またご入所者と一緒に作業を行う事で生活感覚を取り戻していただいています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファ、3階バルコニーにはベンチを置いて自由に座って頂き、ご入所者同士の交流を深めて貰っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。	入所前にご家族やご本人に、居室を見学していただき、それまでの日々の生活の状況と違和感の無いように使い慣れた家具・椅子・テレビなど持込んでいただいたりご家族と一緒に考え工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設の随所にスロープや手摺を設けています。一部のトイレは段差を残していますがこれは下肢筋力低下予防にも役立っています。現場の職員の声からトイレ付近に手摺を増設しました。これからも現場の声に対応して行きます。		

V アウトカム項目 3階			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目 4階			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない